

巡回フィールド
担当官のある一日1999年
4月15日(木)

米川正子

8:00

UNHCRの事業実施パートナー団体の担当者たちとアンゴラ難民の死の際、誰がその処理を担当するかを話す。

1998年12月頃から再燃したアンゴラ内戦の影響で、1999年始めからコンゴの首都キンシャサの西200kmにあるバコンゴ州キンペセの周辺に、アンゴラ難民が到着し始めた。キンペセの地方自治体とUNHCRが難民キャンプの設置に合意し、建設されるまでのこの4ヶ月間、難民は学校、病院、教会などで仮住まいをしている。緊急事態の初期で、死体の処理などについての細かい仕事分担はまだ決まっていない。何か起きればその場限りの対応でしるべき、UNHCRが何事にも巻き込まれている。

パートナー団体の車や予算が不足しているということもあり、UNHCRの車が救急車、葬儀車、タクシーなどの多目的で使われ、既にぼろぼろになっている。それでなくても国道を含むコンゴの地方道路は、雨季は「ポトポト」(リンガラ語で泥沼という意味)、乾季は粉末のような埃がひどい上に穴ぼこが多く、普通に走っていてもすぐに車の状態が悪化する。結局、地元のNGOが今後は死体処理を担当することで話はまとまった。

10:00

難民が仮住まいをしている高校へ行く。緊急に校庭に掘られた便所は誰も管理をしておらず、そのままにされていた。観察していると、便所の周りで用を足している難民が多い。コンゴ人は「アンゴラ人は不潔なのよ」と馬鹿にしているが、よくよく聞くと、アンゴラでは家から離れている便所で女性が反政府軍に暴行されたり、子供が連れ去られたりすることがあり、特に夜、

便所を使うことに恐怖心を抱いているという。早速担当のNGOに便所の周りに電気をつけるよう依頼する。難民には便所の掃除をするように頼んだ。

学校の校長先生との会合で、難民たちが学校の椅子や机などを勝手に使うので修理をしてくれとリクエストされる。難民とは何回か会合を設けて「学校をきれいに使って。先生や生徒のことも考えて」と言っているのだが、先週も配給用の食糧が届かなくてイライラしていた難民が学校の電気の配線を切ったという。期末テスト前の高校生と衝突したり、難民が体育館で自殺を図ったりと、学校側には迷惑をかけっぱなし。難民がキャンプに移動した後、学校を修復することに同意する。

13:00

キンペセの総合病院へ。病気の難民が利用しているのだが、難民として登録する前に、アンゴラ国境から病院に直行する新着難民がいると聞く。もちろん、単にUNHCRが難民の医療費を払うと聞いた「ニセ」難民も混じっている可能性がある。そうした、我々が認知していない「難民」の請求書を病院からもらう。自治体と難民の登録方法について会合を設けなくては。

14:00

難民キャンプ建設担当のNGOとキャンプへ。2週間で建設は終わると言わ



2001年、UNHCRベトナム事務所(コンゴ共和国)でコンゴ民主共和国からの難民のレジストレーション・サイトにて

れていたが、配水所の建設などまだまだ時間がかかりそうだ。キャンプへの道も雨季のため、修理しても泥沼の状態に戻り、全く効果なし。食糧輸送のトラックがどうやってここを通ることができる?期待していたほどの進展はなく、がっかりする。首都のキンシャサ事務所が「緒方高等弁務官が6月にキャンプに訪問するし、それまでには難民を5000人キャンプへ移動してほしい」とプレッシャーをかけてくるのだが、そんなことは現実的に無理!キンペセのUNHCRスタッフは私と運転手だけで、パートナー団体のおかげで何とかオペレーションが進んでいるようなものなのだ。仮住まいの難民への支援、難民のキャンプへの移動の計画づくり、アンゴラ国境に住む人々への難民キャンプに関する情報提供の上に、キンペセの北部にいた、コンゴ共和国難民の陸路による帰還にも多少かわわって、身も心もフラフラ。そんな話をコンゴ人の同僚に話すと「この国は大体、ルワンダ、ブルンジ、コンゴ共和国、そしてアンゴラからの難民、そしてコンゴ人難民の帰還で、何年も緊急事態に振り回されていて、皆疲れているよ」と言われてしまった。

夜

19:00にパートナー団体とのミーティングがあるはずだったのだが、WFPが明日キンペセ入りすると聞き明日に延期することにする。難民の「命」である食糧が届くというニュースは以前から何度も聞いていたのに、全然来なかったのだ。難民や人道援助者皆がフラストレーションをため、キンペセの自治体からは「UNHCRは口ばかり」と非難されて困っていたところ。早く食糧問題を解決したい!その夜は真夜中までレポート書きをする。

Profile

(よねかわ まさこ)

1967年生まれ。神戸女学院大、英国セント大学卒。UNVとしてカンボジアとアフリカ5カ国の4つの国連機関を経てUNHCR職員としてルワンダへ。その後、ケニアを拠点として東アフリカ、大湖地域を巡回、コンゴ民主共和国を経て、ジュネーブ本部にて高等弁務官補佐官、インドネシアで津波支援、スーダンでフィールド事務所設立上げに関わる。現在、南アフリカ、ケープタウン大学にて国際関係修士課程に在籍。